

境町自動運転バス見学会に参加しました！（11/3 掲載）

10月31日(日曜日)、本校の生徒6名が龍ヶ崎 MaaS 推進協議会とつちうら MaaS 推進協議会が共同開催する境町自動運転バス見学会に参加しました。

MaaS とは、Mobility as a Service の略で「地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせで検索・予約・決済等を一括で行うサービス（国土交通省定義）」です。

今回は、2つの協議会に参加している学校のうち、土浦一高・竜ヶ崎一高附属中学校の生徒、流通経済大学の学生合わせて11名の生徒と、協議会関係者11名の計22名で、全国で初めて自動運転バスを定常走行している境町の自動運転バスを試乗しました。

一行は自動運転バスの起点となる「河岸の駅さかい」に到着後3班に分かれ、遠隔監視施設の見学、自動運転バス乗車、国立競技場や高輪ゲートウェイ駅の設計を手掛けた隈研吾氏が設計した S-Gallery、S-Lab を見学しました。

生徒たちは、「自動運転バスとはどんな乗り物か興味があったので参加した。運転席がなく、コンパクトな車両でかわいらしかった。これから出てくる課題をクリアしながら未来の乗り物として普及していくのではないか。」「遠隔監視システムで安心・安全が確保されていることを知った。自動運転バスに乗車していると、街のみなさんが手を振ってくれて、バスが街に認知されていると感じた。隈研吾さんの建物が周囲の風景に溶け込んでいて違和感がなかった。すばらしい建物だった。」などと感想を述べていました。



遠隔監視システムの説明



自動運転バスがやってきました



自動運転バス運転手に質問



隈研吾設計建造物の見学（S-ブランド）